第４８回　学校評議員会　会議録

令和４年７月１９日（火）　１４：００～１５：３０
弘前高等学校　応接室
出席者　評議員　２名･･･赤石茂、木村宏
　　学校側　校長、教頭（司会）、事務長、教務主任、生徒指導主任
　　進路指導主任、教務部員（記録）

１　学校評議員委嘱

２　自己紹介

３　校長挨拶

校長　：　天気予報に注意を払いながらねぷた制作作業を行っている状況である。生徒は運行を信じて制作活動に取り組んでいる。是非とも、その様子をご覧いただきながらアドバイスや助言等があればしていただければと思う。学校経営方針等は校内一巡後、戻ってきてからするものとして挨拶に代えさせていただきたい。

４　校内一巡（授業参観）

学校側参加者と共に学校行事(ねぷた制作)の様子を参観した。

５　意見交換　『令和４年度学校経営方針』について

校長　：　学校経営方針の 1.目指す人間像、2.教育目標については、大きく変わるものではないが、それらを達成するための 3.重点目標及び 4.具体的方策はその時々に力点を置くものであるため、学校経営を任されている校長自身の思いも反映されるものである。

　重点目標の(1)については授業第一主義というのは変わらないが、現在の状況を踏まえ、ICT の活用において一人一台の端末の配布にともない対応を講じていかなければならない。(2)豊かな人間性と社会性の育成については、生徒指導に関する分野であるが教員一人一人が日々の教育活動の中で追い求めていく部分である。どの授業も一方通行になることなく、生徒に考えさせて協働的な学びを求めている。(3)キャ

リア教育の推進は、大きなくくりとしては進路指導の分野となるが、生徒一人一人が自ら考えることを基本としながら、日々の授業や進路指導で生徒に求めている。(4)スクールミッションに関しては、弘前高校のみならず、すべての学校に求められているものである。弘前高校がどのような社会的使命を帯びているのかという部分であるが、今朝の新聞紙面にもあったように現在、児童生徒の減少が問題となっている。青森県がおかれている現状を認識し、こうした状況を踏まえて、弘前高校のスクールミッションというものを考えていかなければならない。そのミッションを実現するために具体的方策で「育成・教育課程・アドミッションポリシー」を明確に掲げている。本校の教員には師弟同行の下、「出藍の誉」を喜びとして従事してほしいと伝えている。

今後の学校を取り巻く環境の変化への対応について、弘前高校は教員、生徒ともに素晴らしい人間が存在しているが、「同じであり続けたいのであれば、変わらなければならない」という言葉があるように、よりよい学校を存続させていくためには現状に満足することなく変わり続けなればならない。我々教員は、第三者の視点で自分自身を客観視し、メタ認知を高めることも必要と考える。

弘前高校と他の進学校との違いは、校長としての目から見ると「すき間時間」「図書館解放」「生徒に時間を返す」という点にあると考えている。部活動加入率も高く、生徒は休み時間などを使い時間を有効に活用していたり、それ以外でも、放課後は図書館を解放し、生徒は自主的に利用している。学年が上がるにつれ、それぞれの受験科目に応じた学習への取り組み方や学習時間の配分が変わるため、一律の学習課題は成立しない。そのため生徒自身がセルフコントロールしたうえで学習できるように、生徒が「学び方を学んでいく」ということを大切にしており、これが絶えざる変化へ対応する力を養成するものだと考えている。

教頭　：　令和３年度の学校評価結果報告書について

学校教育目標に関しての現状と課題としては、大きく３つある。一つは、主体的に学ぶ生徒を育てる体制の整備、二つ目は学校を取り巻く新しい動きへの対応、最後にコロナ禍における安全で効果的な学習指導の研究である。

これに対しての４つの重点目標について２月に評価していただくこととなる。昨年度、学校関係者すなわち評議員から評価していただい

たものとして、キャリア教育の推進の項目に関して、「取り組みに対する効果の実感が得にくい」ものもあるというご指摘を受けた。おそらく総合的な探究の時間に関する部分と考えられるため、今年度は改善していきたい。

教務部　　田澤：　教務部の重点努力目標及びその取り組みについて

現行の教育課程と新教育課程については、新１年生から新教育課程となっており、特に国語、地歴公民が大幅に学習指導要領の内容が変わっている。十分な検討のうえで今年度実施しているが、これをさらに検証しながら改善していく必要があると考えている。

ＧＩＧＡスクールなどＩＣＴ活用については、今年度校内 Wi-Fi が整備され、一人一台タブレットの貸与が実現し、それらを学習活動、特にコロナ関連の臨時休業などが発生した場合に活用できるように現在取り組んでいる状況である。しかしながら、ICT 活用に関しては教員の研修なども必要であるが、教員に一人一台の情報端末の貸与がされておらず、それらの研修に至っていないのが現状である。

次に校務支援システムの円滑な運用についてであるが、校務支援システムについては、青森県教育委員会による一括導入のシステムで、運用段階において不具合等が生じており、活用になかなか苦労している状況である。

スクールミッションの策定に関しては、6 月末日に学校状況調査（生徒の状況、学校を取り巻く環境、特色などについて）を青森県教育委員会へ提出し、これを受けて青森県教育委員会よりスクールミッションが提示され、それを受けて本校におけるスクールポリシーを作り、公表していくという流れである。

生徒指導部　成田：　生徒指導部の重点努力事項について

1.安全安心な学校生活の確保に関して、今年度は大きな事故は報告されておらず、自転車に関するものが１件のみ、いじめ等の報告もない。

2.基本的な生活習慣の確立に関して、本校の特色としては「規律ある自由」のもと、スマートフォンの使用に関してなども他校とは違い禁止という形ではなく、良識と節度を持った行動ということを生徒に求めている。

3.豊かで逞しい人間性の育成に関しては、今まさに行われている文化祭のねぷた制作などを通じて人間性をはぐくむことを目指してい

る。

生徒指導に係る行事の実施については、昨年度は多くの行事等が実施できなかったが、今年度は今のところほぼ計画通りに実施できている。

その他、部活動の大会結果、加入状況などは資料のとおりとなっている。

進路指導部　高杉：　進路指導部の重点目標について

学校状況が様々変わるなか、進路指導部としては常に不易流行を考えている。重点目標にある１に関して「授業第一主義」は何よりも不易の部分であり、そのために進路指導部としては特に校内模試の作題を通じて、作題力の向上と教科指導力の向上を図るものと考えている。

流行の部分として、最も大きなものは大学入学共通テストである。進路指導部が中心になって学年や教科の先生方に対して、研修の案内や勉強会をお願いするなど新しい時代に向けての備えに取り組んでいる状況である。校外での研修もようやく開催できる状況になってきており案内できるようになってきている。

令和４年度進路状況について、昨年度は超難関大学と呼ばれる大学へは、東京大学２名、京都大学２名、東工大４名、一橋大１名の９名合格している。東北大は 33 名、医学部医学科に関して 13 名合格している。進路未定者も 36 名ほどいるが、第一希望へのチャレンジという強い意志を持っての選択である。その他、進路志望状況や学習状況調査は資料のとおりとなっている。

教頭　：　これまでのことに関して質問があればよろしくお願いします。

評議員　木村氏　：　ICT の活用に関して、得意、不得意な方がいる中で得意な人が苦手な人をサポートしていくというのが非効率な気もする。我々の会社では部署が設置されて、その都度作業や準備をお願いしている。不得意な方への負担の大きさを考えると一律に学ぶという考え方は効率的ではないようにも思える。私もとても苦手なため教えてもらうがなかなか覚えられないというのが正直なところである。

教頭　：　いきなりハードルの高いところに不得意な方を連れていくということは、確かに難しいように思える。

評議員　木村氏　：　同窓会報にあった校長の「とがった弘高生」という言葉がとても心

に刺さった。今の生徒は今の時代としてとても良いが、個性が目立つ生徒が少ない印象もある。とてもいい言葉だと思った。

校長　：　私自身は弘前高校出身でないが、本校には弘前高校出身の教員が多い。そうした先生方へ聞くと、それぞれの時代にそれぞれの個性を持った弘高生として、自分の考えをしっかり持った時代であったと聞く。

評議員　木村氏　：　高校時代はまるくても、社会人として世の中に出ていったときに「とがった部分」を出していけるような人間になってほしい。

評議員　赤石氏　：　現在は国公立大学でも旧ＡＯ入試が増えているのか。

進路部　高杉　：　国公立大学でも増えているが、弘前高校としては確かな学力を身に着けたうえで臨むよう語り掛けている。東北大学のように筆記試験も求められるものもあるが、そうでない形態のものもあるのであくまでしっかりとした学力を身につけるということを重視している。

教頭　：　一人一人のご意見を繰り返し考察し、今後の取り組みに生かしていきたい。今日はありがとうございました。